檢體を取るに十ccのピペットを使用する代りに十六、二ccのピペットを用ふればビューレットに於て示す度目は直ちにカゼインの%量を顯はす

此等の測定器は近頃酸測定器及びカゼイン測定器に兼用せらるゝ装置として市上に發賣せらるゝに至れり

又新法と遠心力應用法との比較試験は Kingston Eastern Dairy School に於て Echlin 及び Cane 兩氏が同一の牛乳に就て各別々に之を施行し E 氏は新法を、C 氏は遠心力法を實行し其結果を比較せしに極めて接近せる數字を得たり今參考として之を左表に示す

遠心力法	新 法	遠心力法	新 法	遠心力法	新 法
二、六	二、六四	二、二五	二、二八	二、四	二、四三
二、七	二、六九	二、二	二、二〇	二、三五	二、三五
二、五	二、四四	二、五	二、五六		
二、五五	二、六一	二、三	二、二七		
二、三	二、三六	二、三五	二、三五		
二、六	二、六一	二、三五	二、四三		
二、五	二、五三	二、二	二、二七		

以上の結果を綜合するに平均〇、〇三の差を示すのみ

○千九百十三年中に於て知られたる治療劑

Prof. Dr. S. Rabow: Übersicht der im Laufe des Jahres 1913 bekannt gewordenen therapeutische Neuheiten einschliesslich der Spezialitäten und Geheimmittel.

Chem. Ztg. 1914. Nr. 29.

社家間房吉抄譯

Acetocausin

本劑は酸味を有する腐蝕液にして疣。肉刺(ソコマメ)肝斑(ナマズ)等の治療に使用せらる製造者の報告に依れば毒性成分を含有せざるものとす

Acetonal

本劑はカ、オ脂に十%のアセトンクロ、フォルムサリチール酸エステル及び二%の Alsol を含有し痔疾に用ひらる

Acitrin

本品は Atophan のエチールエステルにして黄色無味無臭なり水には不溶解性にしてアルコール。エーテルには容易に溶解する結晶性粉を爲し熔融點六十一度—六十二度なり其エステルより分離し來れる遊離の PhenylChinonsäure が主なる作用を有するものにしてレウマチス神経痛坐骨神経痛等に用ゐらる用量は一日四回〇、五 g (粉末狀或は錠劑の形に於て) とす而して其服藥後水或は炭酸水を飲用するを可とす

Adamon.

此製劑は前年既に報告せられしものにして Dipromidhydrazinitsäureborneolester なり
ヒステリー神経衰弱等に用ゐられ〇、五一 g 粉末錠劑の形に於て一日三回—五回服用せしむるものとす

Adhesol.

本品は Dreu 氏の創製に係るものにしてカウチュックを加へざる稍固き黄色粘着性の物質なり體温に依り直ちに軟膏様となり貼用せらる之れを除去するにはベンチンを用ゆ本品には種々の薬品を加ふれども本品其ものに於て已に皮膚病に効力あり今二三處方例を示す

Rp. pyrogallol 10.0

Rp. Chrysarobin 10.0

Adhaesol ad 100.0

Adhaesol 50.0

M.D.S.

M.D.S.

Rp. Sulfur praecip 10.0

Resorcin 3.0

Adhaesol ad. 100.0

M.D.S.

Adolan

本品はワゼリン中にサリチール酸。サリチール酸メチール。カムフェル。メントール。クロ、フォルム。オイカリ油。テルペンチン油等を和したるものにして鎮痛擦劑として使用せらる

Agoblin.

本品は錠劑として製造せられ膽石病に用ゐらる其一錠劑中には左の成分を含有す

〇、〇八八g 鹽酸ストロンチウム

〇、〇三二g のサリチール酸ストロンチウム

〇、〇四〇g の Phenolphthaleindiacetat.

服量は朝夕二回二錠とす

Ajuma

Soja 豆(*Soja hispida*) の新蛋白製劑にして美麗なる水に可溶性の佳味を有する粉末なり而して其粉末の形に於て麵麩菓子ビスケットに製造せられ又カ、オと共にソップとして使用せらる其價の廉なるを以て營養劑として貴重なり

Alendrin.

本品は α, α -Dichlorisopropylalkohol の Carbanisäureester にして鎮靜及び催眠劑として用ゐられ服量は〇、五gの錠劑——三錠とす而して本品の鎮靜の効ある事は多數報告せられたり

Aluminium lacteum.

本品は既に千九百〇八年に於て粒狀乳酸アルミニウム即ち "Fixia" として腸消毒劑に推舉せられたり然るに近頃七%の溶液として市上に顯はれ補充劑として醋酸礬土を應用す

○清涼飲料水検査法

本法ハ日本藥學會飲食物調査委員會ニ於テ起案決定シ更ニ同學會總會ニ際シ開カレタル衛生技術員ノ會議ニ附シ修正ヲ經タルモノナリ

編者誌

緒言

一 清涼飲料水ヲ左ノ二類四種ニ區別ス

第一類 炭酸ヲ含有セサルモノ

第一種 炭酸ヲ含マサル天酸鑛泉及其加工シタルモノ